

簿記の基本

経理の役割として、会社の経営活動による取引を記録するということがありました。取引を記録するためには、「簿記」という手段を用います。簿記とは、その字の通り帳簿等に記録する方法のことを言います。簿記の基本的用語の意味を見てみましょう。

1 仕訳

簿記で、その取引を記録・整理するために「仕訳」という作業を行います。この「仕訳」は、「しわけ」と読み、取引を「借方」（左側）と「貸方」（右側）に分けて記帳することを言います。

2 勘定科目

その取引の内容を示すような項目の総称を勘定科目と言います。

3 取引

経理でいう取引と一 の取引とでは、多少異なります。経理でいう取引とは、「資産」「負債」「資本」「収益」「費用」を増加させたり減少させたりする事実をいいます。

(1) 簿記上の取引

簿記上の取引の具体例は、商品を売り上げたり・金融機関からの借入金の返済・給与等の支払・原材料の仕入・災害により損害を被った場合・社長から現金を借り入れたこと等、実際に現金預金の増減及び債権・債務（権利・義務）が発生した場合を簿記上の取引といいます。

(2) 簿記上の取引に該当しない取引

簿記上の取引に該当しない取引の具体例は、原材料を発注したり商品の受注を受けただけで実際を受渡が行われていない場合・代理店契約を結んだ場合・パートタイマーを採用した場合等です。

これらの取引は、資産・負債・資本・収益・費用を増加させたり減少させたりする取引ではありませんので、簿記上の取引に該当しないことに注意してください。

4

収益・費用

収益とは、通常収入を意味しますが、経理の収益は「収入」のほかに、「権利の発生」と「義務の消滅」等も含めて判断します。例えば、商品を売り上げて入金に来月になるような場合、収入は来月ですが、収益は今月計上してしまうのです。

費用も、通常支出を意味しますが、経理上の費用は、「義務の発生」と「権利の消滅」等も含めて判断します。例えば、商品を仕入れて支払が来月になるような場合、支出は来月ですが費用は今月計上してしまうのです。

5

複式簿記と取引の二面性

簿記上の取引には、必ず原因と結果があることが特徴です。たとえば、商品1,000円を現金で売り上げた場合を想像してみてください。この取引は、商品を売り上げたという「原因」と商品を売り上げたことにより現金が1,000円増加したという「結果」の両面があることとなります。このような原因と結果からなる簿記上の取引を仕訳により借方と貸方に分類し、総勘定元帳という帳簿に記入する方式を「複式簿記」といいます。

この場合、原因である商品の売上については、「売上勘定」を、結果である現金が増加したことについては、「現金勘定」を使用します。